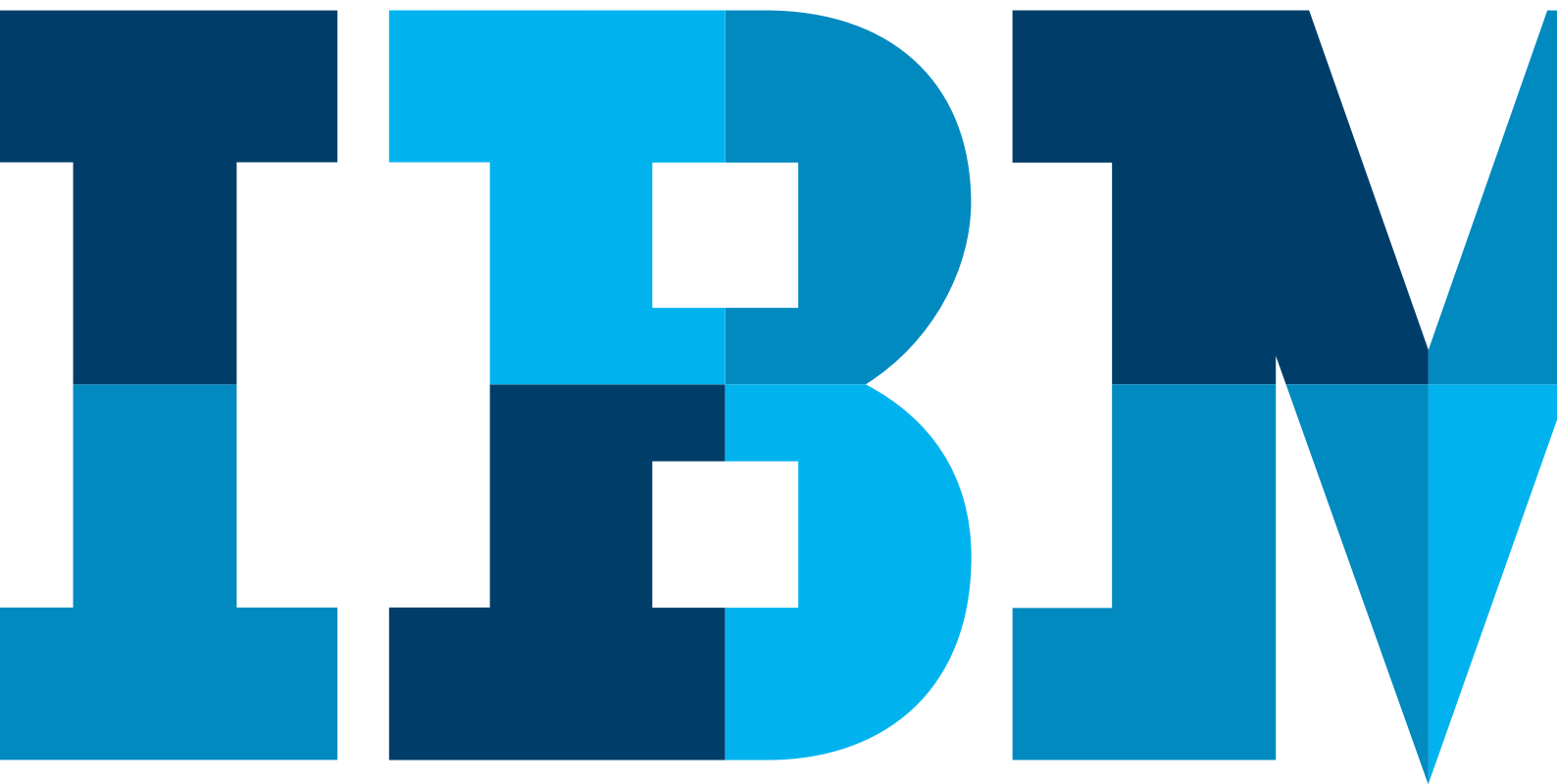


そのドキュメントとスプレッドシート、 捨てませんか

IBM Rational DOORS Next Generation で
要件管理を効率的に、そしてさらに正確に



目次

- 2 概要
- 3 利点 1: ライブ・コラボレーション
- 4 利点 2: 一貫性
- 4 利点 3: トレーサビリティ
- 5 利点 4: 変更の把握
- 6 利点 5: データ利用の支援
- 7 生産性向上ツールからの移行
- 7 結論

概要

不適切な要求管理がプロジェクト失敗の大きな要因の 1 つになっていませんか。要求管理に不備があれば、チーム同士の連携は取れず、時間は無駄になり、コストは跳ね上がり、顧客は不満を抱くことになりかねません。ビジネス、顧客、製品に対する要求の追跡にドキュメント、スプレッドシート、Eメール、Wiki といったツールを使用している場合、プロジェクトをリスクにさらしている可能性があります。

更新の連絡が必要なすべての関係者に通知を送るのを忘れてしまったことはありませんか。ミーティングに出席してみたら、レビュー用に渡されていたドキュメントのバージョンが間違っていたことはありませんか。複数のバージョンのフィードバックを 1 つのドキュメントにまとめなければならなかったり、何人もの人から同じフィードバックを延々と聞かされる羽目になったりしたことはありませんか。

要求の管理は従来のオフィス・ツールや生産性向上ツールでは簡単には行えません。それは、いくつかの重要な機能が装備されていないからです。要求管理を首尾よく行うには、関係性を把握し、依存関係を管理できる能力が必要です。例えば、作成中の機能が、顧客が要求した能力とどう結びつくのかを示すことができなければなりません。複数のチームがリアルタイムでコラボレーションできることも必要です。そして、決定的に重要なのが、バージョン管理の処理と変更管理です。これらの能力がないまま要求を管理しようとすれば、生産性の低下、プロジェクトの遅れ、コストの上昇に陥るおそれがあります。生産性向上ツールを要求管理に使用するのには、ハンマーを使って瓶の口を開けようとするのに等しい行為です。目的は達成できるようにしても、どれほどのコストが必要になるでしょうか。

それと対照的なのが、効果的な要求管理機能を備えた IBM Rational DOORS Next Generation です。これらの機能が、IBM のお客様による以下の達成を助けてきました。

- 開発コストを 57% 削減
- 製品化までの時間を 20% 短縮
- 品質に関わるコストを 69% 削減¹

このホワイト・ペーパーでは、ドキュメント、Eメール、スプレッドシートではできないことを可能にしてくれる、Rational DOORS Next Generation が持つ要求管理能力の主な利点を 5 つ挙げて説明します。これらの能力には要求の収集、推敲、管理が含まれます。また、チームがローカルに局在しようとする、あるいはグローバルに分散しようとする、チーム同士でコラボレーションができることも重要な能力の 1 つです。取り上げるのは以下の利点です。

- ライブ・コラボレーション
- 一貫性
- トレーサビリティ
- 変更の把握
- データ利用の支援。

数字はウソをつかない

IBM のお客様は Rational DOORS ソフトウェアを使用することで、開発コストを 57%、品質コストを 69% それぞれ削減する一方、商品化までの時間を 20% 短縮しています。

利点 1: ライブ・コラボレーション

ドキュメント、スプレッドシート、E メールは、所属チームが世界中に分散している場合はもとより、相手が同じ建物にいる場合ですら、共同作業に絶え間なく問題を引き起こす可能性をはらんでいます。多くのツールが「情報の孤島」を作り出すため、情報の検索、関連付け、使用が難しくなるのです。チームが最新の情報を探し、ドキュメントをレビューし、変更を統合するには極めて多くの時間がかかります。最新の情報が手に入ったと思っても、その収集、レビュー、取りまとめに時間を取られることが少なくありません。その結果、要求が数週間遅れになったり、重要な変更が欠けたりする可能性が生じます。

生産性向上ツールの場合、マルチユーザーでの編集は難しく、管理はほとんど不可能です。そのため、チーム内に複数のバージョンのドキュメントが出回ることになりかねません。これらのドキュメントの所有者は、変更を統合して、ドキュメントを最新版にし、チームにその変更を通知しなければならないのです。Rational DOORS Next Generation には、要求を自動的にロックして上書きや変更を防止する機能が用意されています。複数のユーザーがどこからでも、同じ情報に対して同時に作業し、コラボレーションできます。最新情報は、チームが必要なときにアクセスできるようになっています。

Rational DOORS Next Generation を使用すれば、チームはもっと簡単にコラボレーションできます。ドキュメントの準備が整って関係者のレビューが可能になれば、利害関係者は Rational DOORS Next Generation を使ってそのドキュメントに直接コメントを付け、ディスカッションやコラボレーションを行うことができます。重要な意思決定やディスカッションの内容は、チーム全員が共有できます。E メールをたどって探したり、似たようなコメントを出したり、統合したり、それに応答したり、といったことに無駄な時間と手間を取られることはありません。Rational DOORS Next Generation を使用すれば、チームのメンバーに宛ててコメントを付けて通知し、それをメジャー/マイナーに分類することにより、重要な事項を適切な相手に、最初に処理してもらうことができます。Rational DOORS Next Generation は、コメントが付いたタイミングで E メール通知を送信できます。これにはハイパーリンクが含まれており、ユーザーはそこから、必要な情報に間違いなくアクセスできます。たとえ時差があっても、レビュー・サイクルは縮まり、コラボレーションは向上します。

利害関係者に常に十分な情報を提供し、積極的に関与してもらうことは極めて重要です。Rational DOORS Next Generation では、チームを識別し、自動的に最新情報を伝えます。E メール通知に加えて、Rational DOORS Next Generation にはダッシュボードも用意されています。そのためこの Web アプリケーションにログインするとすぐ、最も重要な情報がそのユーザーに表示されます。ダッシュボードにはチームのメンバー、プロジェクトの予定表、加えられた変更、進行中のレビューとコメントが含まれています。Rational DOORS Next Generation は「Single source of truth (唯一の正しい情報源)」の役目を担うとともに、関係者が最新情報に自動的にアクセスできるようにします。

利点 2: 一貫性

プロジェクトのデータはときに非常に複雑化します。チームにとっては、関連する情報が論理的に、かつ一貫性を持って組織化されていることが必要です。

Rational DOORS Next Generation では、プロジェクト・チームが情報の基本構造の概要を表したテンプレートを用意しておくことができます。例えばシステム要件のテンプレートであれば、概要や、機能要求および非機能要求の領域をひな形に含めることができます。さらに、収集の必要がある各種の情報を、適切な注釈を用いて「テンプレート化」できます。例えば、システム要件をシステム要件仕様書に入れ、そこにコスト、リスク、優先順位といったすべての適切な注釈のほか、必要と思われる追加情報を盛り込むのです。

これに対してオフィスのドキュメント・ツールの場合、元の構造やコンテキストを損なうことなく要件定義に注釈を付けることはできません。要求に注釈を付けたとしても、そのようなタイプの情報に基づいたドキュメントの並べ替えやフィルタリング、およびどの注釈が足りないかの判断は不可能です。最終的には誰かがドキュメントを綺麗に整えて、注釈を削除しなければなりません。

ワープロのユーザーはよく、要求をドキュメントからスプレッドシートにコピーし、別の列を追加して注釈を付けるという手段を使います。そうすると、ドキュメントが更新されると、すべてのドキュメントとスプレッドシートについて、ユーザーが手動で変更を同期させなければなりません。これらの手作業は時間がかかることが多いうえ、大量の処理には対応できず、誤りが発生する可能性があります。

チームのメンバーはこれに果敢に取り組んで、統合、把握、ステータスのモニターを行います。そしてその情報に基づき、意思決定を行います。残念ながら、誤りが多いデータは信頼できず、プロジェクトはリスクにさらされます。

Rational DOORS Next Generation を使用すれば、チームは必要なとき、最新の情報にアクセスできます。元のドキュメントの形式は保持されます。必要に応じて、優先順位、リスク、ステータス、カテゴリといった注釈を列に表示できます。内容と注釈は並べ替えとフィルタリングができます。また、ビューを保存することもできます。これによってデータの視点を素早く変え、必要な情報だけを表示することが可能になります。分析はスピードアップし、使用する情報の一貫性と精度が向上します。

利点 3: トレーサビリティ

スプレッドシートは、必要な注釈を保存して、要求ドキュメントに新たな次元を追加するのによく使用されます。チームが要求とテストの間の関係を収集するのにも、また別のスプレッドシートが使う必要があります。さらに、検証マトリックス、コンプライアンス・マトリックス、トレーサビリティ・マトリックスは別途維持しなければなりません。これらの手作業は大量の処理には対応できず、ユーザーによる間違いが生じがちです。

Rational DOORS Next Generation では、ユーザーは「考えながらリンク」できます。ドラッグ・アンド・ドロップ機能を使うだけで、新しい要求の間の関係性を作成し、より高いレベルの情報に対応できます。

DOORS Next Generation は開発ライフサイクル全体を通して、関係性の自動的な作成と維持をサポートします。この関係性には要求、作業項目、アーキテクチャー、設計、テスト計画の間の関係性が含まれます。これによって、異なるツールを使用した結果生じる「情報の孤島」の間の「隙間」がなくなります。これらの隙間を取り除けば、ユーザーによる間違いは減少します。

これらの関係性は要求や注釈と一緒に列に表示でき、それによってプロジェクトの状況に対する可視性が高まります。結果として成果物の品質が改善され、プロジェクト管理が向上します。ビューを保存することで、チームはここでも利害関係者のニーズに合わせ、データの視点を素早く変えることができます。

Rational DOORS Next Generation が提供するトレーサビリティの真価が発揮されるのは、プロジェクト・チームが監査要求に対応したり、変更要求の影響を把握したりする必要が生じた場合です。スプレッドシートのユーザーであれば、異なるレベルの要求間のつながりを何とかスプレッドシートの形で維持し、後から解釈しようとするのですが、これらの要求は複数のドキュメントに存在しており、それらはさらに別のドキュメントと関連しています。ユーザーの要求に対するプロジェクトのアクティビティのコンプライアンスを解釈したり、変更の影響を評価したりするのは気が遠くなるような作業です。Rational DOORS Next Generation を使用すれば、これらの難題を回避できます。関係性を見つけたらそれらを記録し、それに関連している情報の詳細をリッチ・ホバー (クリックすることなく、カーソルを合わせると自動的にリンク先の詳細情報を表示) を使って確認できます。現在のドキュメントから離れる必要はありません。

必要な場合は関係性を全探索し、1つのドキュメントから別のドキュメントへと素早く移動できます。関連する情報が列に表示されるビューでは、ユーザー要求が撤回されていたり、それより低いレベルの要求や最終製品に関連していないことに起因するギャップを強調表示できます。これはスコープ・クリープ、すなわちプロジェクトの目標やビジネス・ニーズに整合しない機能が作業に追加されており、それによって貴重な時間が失われる事態を特定するのに役立ちます。要求と複数のレベルの関係性をグラフィカルに確認できるため、変更の影響をより簡単かつスピーディーに評価できます。そして監査の際に必要なが生じれば、いくつものドキュメントを調べたり、何人ものチームのメンバーに照会したりしなくても、何が必要なのかを明確に示すことができます。

Rational DOORS Next Generation のトレーサビリティは動的です。このツールで誰かが変更を加えれば、即座に更新が作成されます。下流の要求に変更があれば、それが上流の要求のトレーサビリティ列に自動的に表示されます。ユーザーは必要な場合はいつでも最新のトレーサビリティ・マトリックスにアクセスできるほか、その変更がどのような影響を及ぼすのかも確認できます。

利点 4: 変更の把握

プロジェクトで苦しい時期の1つが、最初の要求を記述し、合意を得た後です。全員が満足し、張り切って最初の一連の要求の作業に取り掛かります。しかし、変更が発生するのは避けられません。お客様の気が変わった。サプライヤーがコストやパフォーマンスの元々の目標を達成できない。当初の計画の実施が不可能であることがエンジニアから、あるいはテストによって指摘された。あるいはもっと単純に、既に作業に入っていた要求が修正された。

可能な限り効果的に変更を管理することは至上命令です。変更には主に次の2つのステップがあります。

- 変更の影響を事前に把握する
- 影響を受けるすべての領域が、必要に応じて変更されたことを確認する

ドキュメントとスプレッドシートでは、個々の情報間関係性を簡単に理解する助けにはなりません。テストが失敗して不具合が発生した場合でも、あるいは顧客から仕様の更新が出された場合でも、ドキュメントやスプレッドシートではその影響を分析できません。それどころか、要求管理の担当者が何週間も掛けて変更の影響の把握に努めるのが普通です。

Rational DOORS Next Generation では、ユーザーがデータに対する視点、すなわちビューを作成できます。そのビューを見れば、自分の要求が、テストや設計といった開発プロセスの他のステップにある他の要求や情報とどこで関係するのかがわかります。ユーザーはまた、複雑に絡み合った情報をグラフィカルに探索し、それを使って複数のレベル、さらには複数のドメインに及ぶ変更の影響を把握することができます。この情報は静的なものではありません。このツールで誰かが変更を加えれば、それは即座に更新されます。下流の要求に変更があればそれが自動的に表示されるため、ユーザーはその変更が及ぼす可能性のある影響を見ることができます。

従来のツールでは、チームは変更が始まると、これらの変更を伝達し、影響を受ける全領域での対応が確実に行われるよう、多大な労力を費やします。利害関係者を始めとする人々は、変更されるものは何で、それがどう変更されるのか、そしてその変更に関して何らかの措置を取る必要はあるのかを知りたいと考えています。

Rational DOORS Next Generation では、要求が変更されるたびに、完全な履歴が維持されます。チームはこの履歴にアクセスして、何が、誰によって、いつ変更されたのかを知ることができます。Rational DOORS Next Generation は情報間の関係性を活用することもできます。サスペクト・プロファイルから変更のアラートが送付されると、ユーザーはそれを検討し、適切な対応を取ることができます。そして、その変更を評価した後、サスペクトをクリア (削除) します。ユーザーがさらに別の変更を加えると、新しいサスペクトが生成されます。変更は最小限の手間で、リンクされているプロジェクト内の情報の各レベルに波及していきます。

Rational DOORS Next Generation は、チーム全体がその変更の影響を事前に評価し、戦略を立案し、必要な変更に対応できるようにします。

利点 5: データ利用の支援

ドキュメントやスプレッドシートでは、データを提示する方法の数が限られることがあります。例えば、お客様は要求をドキュメントの形に構成し、レビュー・プロセスを簡単にしたいと考えるかもしれません。しかし財務チームでは、注釈を表形式にして、それぞれの要求にかかるコストを推定できるようにしたいと考えるかもしれません。スプレッドシートの場合、データに対する視点をこれらのように変えるには、別バージョンのドキュメントを作成しなければなりません。そして、それらを維持するほか、レポートが必要になるたびに、さまざまなソースからそれらを抽出・統合しなければなりません。

Rational DOORS Next Generation は一元管理拠点に情報を保存し、それをドキュメントの形式で提示します。ユーザーは個別のステートメントに対して、元の構造を変えずに属性を追加します。さらに、特性に基づいて情報のフィルタリングと並べ替えを実行できます。Rational DOORS Next Generation は情報間の相互参照と関係性を自動的に維持するため、ユーザーがそれを行う必要はありません。Rational DOORS Next Generation はまた、変更を追跡して、対応が必要な可能性のある関係者にアラートを送ります。

明確であいまいさのない、検証が可能な要求を記述するためのベスト・プラクティスによって、プロジェクトの複雑さが緩和されます。用語の濫用による紛らわしさを避けるために、現在では多くのプロジェクトには用語集が含まれています。Rational DOORS Next Generation では、ドキュメントから用語集にアクセスできます。用語の検索や更新ができるだけでなく、それらが導入されていれば、用語集の更新もドキュメントから可能です。

Rational DOORS Next Generationでは、ほぼどのようなタイミングでもこの情報のすべてを引き出すことができます。利害関係者のニーズに合わせたビューを、コンプライアンス、ギャップ分析、コスト、テスト結果など、その対象を問わずに作成できます。ビューは動的かつ最新であり、プロジェクトの変更に応じて変化します。情報を手動で複数のソースから引き出して統合し、さまざまな対象者に合わせてドキュメントを作成することはしなくて済みます。それは Rational DOORS Next Generation のビューがしてくれるのです。ビューはダッシュボードからアクセスできるほか、印刷もできます。

Rational DOORS Next Generation を使用すれば、ユーザーはデータを利用するための処理をツールに任せ、プロジェクトにじっくり取り組むことができます。

生産性向上ツールからの移行

ドキュメントとスプレッドシートからの移行は、思ったよりも簡単です。いつも使用しているドキュメントを Rational DOORS Next Generation にインポートできるのです。

Rational DOORS Next Generation は、ドキュメントにさらに詳しい情報を追加できるように作られています。原本の全体的な構造はそのまま維持されます。見出しがインポートされ、その階層もそのままです。Rational DOORS Next Generation には、ナビゲーションを簡素化するための展開/省略可能なセクションがあります。画像と表もインポートされます。要求はキーワード、すなわち区切り文字で区切られたテキストによって識別されます。それらは特定の情報タイプに関連付けられており、その情報タイプには一群の属性があらかじめ定められています。

複数のドキュメントをインポートする場合は、ドラッグ・アンド・ドロップによるリンクを使って情報を関連付けることができます。それを行った後は、リンクは常に一貫性を保ちます。サブジェクト・プロファイルを有効にして、リンクされた情報への変更をモニターし、関連付けられている項目が変更されたことと、作業の有効性を調べるように警告するアラートが自動的にチームに送られるようにします。

結論

仕事に適したツールを使いましょう。Rational DOORS Next Generation なら、もっとハードにではなく、もっとスマートに仕事ができます。適切な関係者が、その役割に応じた適切な視点のデータを、適切なタイミングで閲覧できます。望む形の情報を探して、山のようなドキュメントやスプレッドシートを何週間もかけて処理するのは、昔のこととっていいのではないのでしょうか。ユーザーはプロジェクトの重要な部分にじっくり取り組み、反復作業や時間のかかる作業はツールが処理します。

Rational DOORS Next Generation により、ユーザーは自分のプロジェクトを自分でコントロールできるようになります。ビルドや設計などの重要な作業に集中でき、データ、エラー、サイロ化した情報、いくつものドキュメントやスプレッドシートに、1つ1つの変更を手作業で記録するといったことに悩む必要はありません。仕事がスピードアップし、より迅速な対応が可能になるとともに、トレーサビリティと影響分析が向上します。更新は自動的かつ即時に行われ、変更と要求はダッシュボードと可視化された関係性から追跡できます。メンバーがどこにいても、チーム全体がコラボレーションしながら変更の影響を事前に評価し、変更のための戦略を立案し、必要な変更に対応できます。

成功へのドアを開きましょう。IBM Rational DOORS Next Generation はよりスマートなプロジェクトのためのソリューションです。IBM のお客様は Rational DOORS Next Generation を使用して効果的な要求管理を実現し、それによって開発コストと品質コストを削減する一方、商品化までの時間を短縮しています。次はあなたのプロジェクトの番です。

詳細情報

IBM Rational DOORS Next Generation の詳細については、IBM 担当員または IBM ビジネス・パートナーにお問い合わせいただくか、以下の Web サイトをご覧ください。

ibm.com/software/products/ja/ratidoorng



日本アイ・ビー・エム株式会社
〒103-8510
東京都中央区日本橋箱崎町 19-21

IBM のホーム・ページ
ibm.com/jp

IBM、IBM ロゴ、ibm.com、DOORS、および Rational は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。

現時点での IBM の商標リストについては、ibm.com/legal/copytrade.shtml をご覧ください。

本資料は最初の発行日の時点で得られるものであり、随時、IBM によって変更される場合があります。すべての製品が、IBM が営業を行っているすべての国において利用可能なものではありません。

記載されているお客様事例は、例として示す目的でのみ提供されています。実際の結果は特定の構成や稼働条件によって異なります。

IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

本資料の情報は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証、および第三者の権利の不侵害の保証を含む、すべての明示もしくは黙示の保証責任または保証条件を負わないものとします。IBM 製品は、IBM 所定の契約書の条項に基づき保証されます。

¹ これらのパーセンテージは、IBM のさまざまなお客様において、特定の運用条件下で得られた値です。実際の結果は、異なる可能性があります。

© Copyright IBM Corporation 2014



Please Recycle